

富山大学  
人間発達科学部  
学部案内  
2018



「豊かな社会性と人間力」を有する教育人材の養成

# 人間発達科学部

2005年に、富山県にあった3つの国立大学を統合したとき、教育学部を改組して誕生したのが人間発達科学部です。人間発達科学部は、教育学部で培った学校教員の養成を中心に据えながら、幼児教育、スポーツ、生活、環境、福祉、情報といった生涯学習を支援する広い意味での教育人材を育成しています。

本学部を卒業すると、学士(教育学)の学位が授与されます。また、必要な単位を修得することで、幼稚園、特別支援学校、小・中・高等学校の教員免許や保育士の資格、社会福祉士の受験資格なども取得することができます。毎年6割ほどの学生が教育人材として卒業しており、そのうちの7割近くが学校教員となっています。その他の学生は、資格等を活用して官公庁や一般企業に就職したり、専門性を高めるために大学院に進学しています。

人間発達科学部ができてから10年以上経ちましたが、人間発達科学とは一体どういう学問なのか、人間発達科学部では何が学べるのか、という質問をまだ受けることがあります。人間発達科学とは、既存の学問体系とは異なり、人間という複雑な存在を対象とし、発達という時系列的な変化を踏まえながら、多面的・多角的に考えていく学問と捉えることができます。人間は置かれた環境でその発達は大きく左右されるので、教育はとても重要な役割を担います。人間発達科学部は、人間のよりよい発達を支援する教育人材を育成する学部ですから、教育の本質を追究することも重要な目的となります。具体的には高度で専門的な知識を身に付け、教育現場をはじめさまざまな経験を積みながら、教育とは何か、人が学ぶとは何かを研究し、人を教え、支援する技術を身に付けることのできる学部です。

複雑で不断の変化をとまなう人間の発達に、さまざまな切り口でアプローチするため、本学部には多様な学問領域を専門とする教員が所属しています。人間発達科学部のこうした学際性及び多様な学問領域が連携した学びと研究は、本学部の強みであり、他の学部が無い特色です。

異なる価値観と問題意識を持ち、さまざまな分野での活躍を目指す学生が、お互いの違いを認め合い、一つ屋根の下に集い、切磋琢磨する学部だからこそ、豊かな社会性と人間力が育まれるものと考えています。このような人間発達科学部の取り組みに共感してくれる次代を担う若い人々を大いに歓迎いたします。



学部長あいさつ

人間発達科学部長

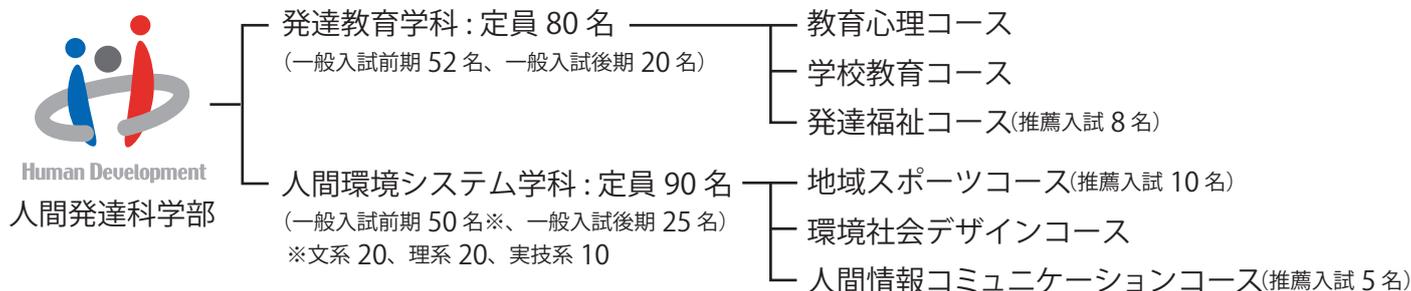
**大川 信行**

Okawa Nobuyuki

## 学部の組織と募集人員



推薦入試はコースごとに、前・後期の一般入試は学科ごとに実施します。人間環境システム学科前期入試(文系・理系・実技系)は高校までの勉学の成果を入試時に生かしてもらうためのものです。コース分けは、入学後、1年次前期末に実施します。



<附属施設> 附属人間発達科学研究実践総合センター、附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校

## 受入可能人数



各コースには、1年次後期から分かれま。設備や教員数および教育効果を考慮して、受入可能人数(推薦入試の人数を含む)が、各コースごとに設定されています。人数を超えた時は、選考する場合があります。

発達教育学科	教育心理コース(20)、学校教育コース(45)、発達福祉コース(42)
人間環境システム学科	地域スポーツコース(30)、環境社会デザインコース(50)、人間情報コミュニケーションコース(30)

学科	発達教育学科			人間環境システム学科		
	教育心理	学校教育	発達福祉	地域スポーツ	環境社会デザイン	人間情報コミュニケーション
小学校教諭1種免許	◎	◎	◎	○	○	○
中学校教諭1種免許	○	○	○	◎ 保健体育	◎ 理科、社会、家庭	◎ 数学、英語
高等学校教諭1種免許	○	○	○	◎ 保健体育	◎ 理科、地歴、公民、家庭	◎ 数学、英語
特別支援学校教諭1種免許	○※	○※	◎※	—	—	—
幼稚園教諭1種免許	○	○	◎	—	—	—

## 取得可能免許

◎取得可能な免許の該当学科及びコース  
○◎免許取得を条件とし、取得可能な免許  
※小学校教諭免許取得を条件として、取得可能な免許

人間発達科学部で取得可能な資格  
保育士(定員20名:発達教育学科発達福祉コース)、認定心理士(発達教育学科教育心理コース)、社会福祉士受験資格(定員10名:発達教育学科発達福祉コース)、学芸員(他学部の授業の履修が必要)等

人間発達科学部では様々な実践を通じ現代に必要な8つの能力向上をめざしています。  
人を育てる能力の高い人材として社会に出られるよう、大学生としての学び方の基礎から実践的な教育プログラムまで、  
様々なカリキュラムやプロジェクトでバックアップします。

## 基礎ゼミ

入学後半年は、主として「学部共通科目」および「基礎ゼミナール」を履修し、学生と教員が少人数で話し合うオリエンテーションも活用しながら、自分の資質や進路を考えてコースを選択します。語学などの全学「教養教育」、人間発達科学部の「学科共通専門科目」の履修も1年次に始まります。

## 観察実験アシスタント (旧・理科支援員)

小学校・中学校理科の実験・観察の準備や授業補助、後片付け、理科室の整備をするのが、観察実験アシスタントの仕事です。

平成28年度は、富山県内小・中学校のうち71校で本学部を中心とした富山大学学生アシスタントが、地域人材や富山国際大学学生アシスタントとともに活躍。授業やゼミの空き時間を活用し、毎週1回程度通勤する「長期のインターンシップ(有給)」によって、現場感覚を磨いています。



## 学級担任論

### (学びのアシスト/スタディ・メイトジュニア)

学級担任論は、講義と小学校でのフィールドワークをあわせ持った創造的な授業です。A、B2つのコースにわかれ、Aコースは「学びのアシスト」と呼ばれ、学級担任の補助をしながら授業や学級経営をどう進めるかについて学習します。Bコースは「スタディ・メイトジュニア」と呼ばれ、子どもの視点に立った支援とはどのようなものかについて学習します。両コースの教員志望の学生は、教育委員会と学部との緊密な連携・協力のもと、約8ヶ月間、配置された小学校で教員の仕事を継続的に体験します。



## 教育実習

発達教育学科では、幼稚園と小学校の免許取得希望者に対して、1年次に観察参加、2、3年次に附属幼稚園、附属小学校、富山市立堀川小学校等で教育実習を実施しています。また、特別支援学校と高校の免許取得希望者に対しては、4年次に附属特別支援学校と附属中学校等でそれぞれ教育実習を行っています。

人間環境システム学科では、中学校と高校の免許取得希望者に対して、2年次に観察参加、3、4年次に附属中学校、協力中学校で教育実習を行っています。大学での通常の講義や実習の事前・事後指導と合わせ、高い見識と実践力を持つ教員を養成しています。



## インターンシップ

人間発達科学部のインターンシップは、「インストラクショナルデザイン」「ボランティア体験」との組み合わせの中から必要な単位数を修得しなければならない科目(選択必修)です。

就労体験の一つであり、関心のある企業等で10日間を目安に実習・研修等を受けます。富山県インターンシップ推進協議会が管理している受入れ先企業等から選択し、3年生の夏季休業期間中に履修する事を原則とします。ただし、単に実習・研修を受けるだけではなく、社会人としてのマナー等に関するセミナーを受講したり、面接を受けたりする事前の準備があります。事後指導を含め、これらを一体のものとして取り組む事で効果を上げています。

## プロジェクト型学習

現代社会の複雑化する諸問題を解決できるように、講義、実験、演習等で鍛えた能力を活用して、プロジェクト型学習(プロジェクトマネジメント、プロジェクト研究)に取り組みます。問題発見から調査分析、企画立案、制作と実践、考察と評価、発表と情報共有に至る包括的なグループ学習を行い、新時代の社会人に求められる能力を高めながら、特別研究への確実なステップを踏みます。

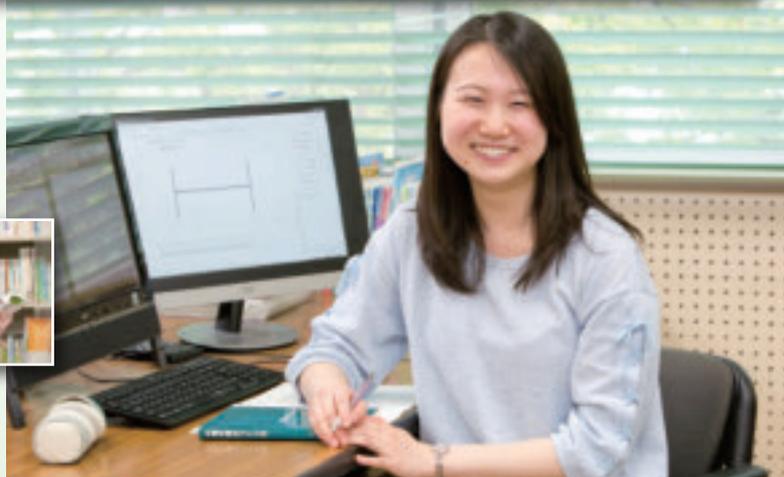
## 特別研究

4年間のプロジェクトの総決算となるのが特別研究です。3年次までに身につけた技法や問題意識をベースに、自分で選んだ研究テーマにふさわしい教員の指導のもと、問題の発見、解決方法の選択、調査や実験などの活動、考察や発表のプロセスを1年間かけて実践的に学びながら、オリジナルな提案をまとめます。

# 発達教育学科 教育心理コース

こんな人にお勧めします！

- 心理学を活かした仕事をしたい人
- 心の仕組みを知りたい人
- 心のサポートをしたい人



写真左：4年 森田千尋さん<富山県出身> 写真右：4年 清水美奈さん<愛知県出身>

## □□ Educational Psychology

### コースの特徴

教育心理学の様々な領域を科学的に研究し、実践に活かす研究と教育を行います。本コースは、心理学的な基礎訓練、コンピュータを用いた調査分析、臨床アセスメント、カウンセリング心理学などを重視した教育を行います。

具体的には、例えば「教育心理学」や「学級集団心理学」など、子どもたちに関する心理学的な基礎知識を学べる科目、「心理学的教育論」や「教育の方法と技術」など、よりよい授業実践につながる科目、「教育相談」や「臨床心理実習」など、子どもたちの心理的サポートに役立つ科目を学ぶことで、公務員の心理職や児童相談所の相談・心理判定、一般企業での調査業務、カウンセリングができる人材を養成しています。

### 先輩からひとこと

「教育心理コースの大きな目標は、名前にもあるように「心理学を教育現場にどのように活用するか」ということだと思います。そのため、子どもたちに関連した心理学を中心に基礎的なことからカウンセリングなどの応用技術まで幅広く学びます。それぞれの分野に専門の先生がいらっしゃるのだから学ぶことができます。また教育心理コースの特徴として、講義だけでなく実際に中学校へ行って子どもたちと関わる実習があります。約1年間かかわることができるので、子どもの長期的な変化に気がつける貴重な実習でした。子どもたちと関わる中で得られた学びは、自分にとってかけがえのないものになっています。他にも実験実習をしたり心理検査を取ってみたい座学以外の講義も多く、より体験的に学ぶことができます。教育以外にも様々な分野の心理学について専門的に学びながら3年生の終わりまでにじっくり自分の卒業論文のテーマを選んでいくので、心理学に興味はあるけれど何をするのか分からない、という人もきっと自分の興味のある分野が見つかるのではないのでしょうか。

心理学は人の心を科学的に研究する学問なので、人との関わりでのちょっとした「あれ?」が研究のテーマに

なることもあります。ぜひいろいろなことに興味を持って挑戦して、充実した大学生活を送ってください。」

(4年 森田千尋さん)

「心理学を学んでいると言うと、「ここを読まれそうで怖い」とか「今何を考えているでしょう」とかと言われることがあります。しかし残念ながら、心理学ではいきなり相手の心の中を透視することはできません。心理学では多くの場合、実験や調査などでデータを集め、それを数学的に分析することで、人の一般的な傾向を明らかにしようとしています。なぜ人は言葉を話せるようになるのか、この性格は遺伝なのかなど、何気なく行っている行動の背景を探っていく、とてもおもしろい学問だと思います。実際に学生が行う研究に卒業論文があります。富山大学では、先生方があらゆる分野の研究の指導をしてくださるので、興味のある研究をほとんど何でもすることが出来ます。今の学生は、ネットの使い方と友人関係の関連や、おたくの心理など、個性豊かな研究をしています。

また教育心理コースは、実習も充実しています。実際に中学校の相談室に行かせて頂く実習では、彼らに対する対応の難しさや、成長を感じる喜びなど、実際に悩みを抱えている子どもたちと活動することでしか得られない経験をさせて頂きました。

勉強だけに限らず大学は、自分の気持ち次第で何にでも挑戦できる場です。ぜひ、気持ちの赴くままに様々な経験をしてください。無駄なことは何一つないと思います。」

(4年 清水美奈さん)

### 取得可能な免許・資格

教育心理コースでは認定心理士と、小学校教諭1種免許の免許取得を条件として、中学校教諭1種免許・高等学校教諭1種免許と、特別支援学校教諭1種免許・幼稚園教諭1種免許の免許が取得可能になります。

### 就職状況

一般企業や教師のほかに、心理学的な知識を活かした分野として、児童相談所の心理判定員や家庭裁判所調査官のような公務員心理職、教材開発関係の企業や福祉関係の企業・団体への就職を目指す学生が多くなっています。

また、実践や研究を深めるため、大学院へ進学する学生もいます。

### カリキュラムの特徴

基礎科目の「社会心理学調査法」や「心理学実験法」などで、心理学の研究スタイルを学びます。そして様々な心理学分野を幅広く学びますが、例えば教育・発達分野として「発達心理学」や「教育心理学」、臨床・性格分野として「カウンセリング」や「臨床心理実習」、知覚・学習分野として「認知心理学」や「教育の方法と技術」、社会・産業分野として「社会心理学」や「学級集団心理学」などがあります。

このように幅広く学び、4年生では自分の関心領域のテーマで卒業論文を作成します。

### 教員一覧と専門分野

- 石津 憲一郎(カウンセリング心理学・学校心理学)
- 小川 亮(教育心理・教育工学・情報教育)
- 姜 信善(発達心理学)
- 近藤 龍彰(発達心理学・臨床心理学)
- 佐藤 徳(社会心理学・実験心理学)



モデルカリキュラムは学部の公式ウェブサイト内にあります。  
<http://www.edu.u-toyama.ac.jp/curriculum/>

# 授業や研究の様子

## 臨床心理学

臨床心理学は幅広い心理学分野の中で、心理療法・心理アセスメント・カウンセリングといったトピックを含み、心理的な困難を抱えた人の支援にかかわる、実践の学です。さらに、心理的な困難を多角的に理解するため、精神医学や異常心理学といった近接領域のトピックも関係してくる、とても幅広い学問分野になります。

この授業では、このように幅広い内容からいくつか重要なものを取り上げて、丁寧に解説していきます。無意識的な「こころ」の影響であったり、具体的な行動の改善であったり、「こころ」の自己治癒力の話も含みます。

この授業を通して、心理的な適応・不適応とは何かについて深く問いかけ考えることにより、自分自身のメンタルヘルスを、ひいては自分自身の来し方行く末を考える、良き機会になるかもしれません。



## 心理学実験法



どのような味の料理ができるかはそのレシビ次第であるように、私たちの人生においてどのような「リアリティ」が構成されるかは、その方法つまり「生」のレシビ次第です。

科学的な実験についても事情は同じで、その結果はその方法に依存しています。特に心理学の研究においては、研究する側にも「こころ」があるため、実験の手法や結果の読み取りに、先入観をはじめとする様々な歪みが生じる危険があります。そういった危険性や限界の留意点を踏まえつつ、しかし一方で、人の「こころ」の不思議に巧みなアプローチをかけ、人の心の一端を科学的につまびらかにする、そんな心理学の多様な実験手法について、実際にいくつか体験しながら、学んでいきます。

この体験はもしかしたら、あなたに心地よい衝撃=アハ体験を与える、かもしれません。

## 知覚心理学

私たちの目はカメラと違います。耳はマイクと同じでなく、そして脳はパソコンのCPUとイコールではありません。つまり私たちの「こころ」は、世界をそのままに受け止めて認識しているわけではないのです。私たちは、私たちが意識的無意識的に作り上げた「世界」を、「こころ」を通して知覚し、その中で生きているのです。

この授業では、実際の錯視（目の錯覚）素材などをとおして、我々が「世界」（物理的な刺激）をただそのままに「知覚」しているわけではない、ということをもまず体験し、そのうえで、では我々はどのように「世界」を作り上げているか、「こころ」の不思議なメカニズムについて学んでいきます。ロボットと人はどこまで同じでどこから違うのか…この授業では、ヒトとは一体何なのか、考えさせられること間違いなしです。



## 健康心理学



健康心理学とはその名の通り、人の心身の健康に関する心理学の総合的な名称です。でも、そもそも「健康」とはいったいどんな状態でしょう。病気とは対極にありそうですが、かの世界保健機構(WHO)も『健康とは単に疾病又は病弱の存在しないことではない』と語っています。まして目に見えない「こころ」の健康とは何なのか。

本講義では、そんな分かりにくさをかみしめつつ、身体の健康と「こころ」の関係、病気になるやすい/なりにくい性格、身体の痛みと「こころ」との関係など、様々な健康心理学のトピックを紹介していきます。さらに、リラクゼーション技法や見方を広げるワーク、自己分析のワークなど、様々な心理学の支援技法の体験を通して、「こころ」の健康とは何か、どのような状態なのか、様々な思いを巡らせていきます。

## 教育相談

学校現場は児童生徒の教育的成長が期待される場ですが、心理的不適応につながる要因も少なくなく、それらが顕在化すると、不登校やいじめ、非行といった学校不適応行動につながりかねません。さらには、児童虐待の問題や発達障害を抱えた子どもたちへの対応など、教師に求められるものは多岐にわたります。そして、子どもたちにとっても最も身近な存在である教師だからこそできる、不適応の解消や予防の手立てがあります。

この授業ではそのような、教育現場で教師が使えるカウンセリングの考え方（哲学）と、実際の関わり方（技法）の習得をめざします。また、学校で苦戦する子どもたちの支援を目的とした様々な施設・機関の紹介や、具体的な連携について学んでいきます。幅広い対応を学ぶことで、現場で役立ち頼りにされる教師になっていきます。

## 社会心理学



3人集まれば社会になる、と言われていますが、自分以外にもう1人そばにいただけでも、私たちの立ち振舞いは影響を受けます。その意味で、人は極めて社会的な存在といえるかもしれません。

社会心理学はこのような、人の社会的側面に焦点をあてます。他者がどのような影響を及ぼすのか、その場にいる人が増えると影響も変わるのか、人の残虐性はその場の状況に影響を受けるのか、などなど、身近なトピックから掘り下げていきます。

## 発達臨床心理学

この授業では、人が生涯かけて歩む発達段階のうち、特に思春期に焦点を当てます。子どもから大人への過渡期である思春期には、身も「こころ」も急激に変化します。急激な変化は時として、様々な揺れやひずみを生じさせます。

このように思春期に顕在化しやすい心理的不適応、とくに学校場面における不登校・いじめ（暴力）・非行といった問題について、心理学的立場からの理解を解説していきます。その際、すべての原因を個人の「こころ」に帰する「心理主義」に陥らないよう、学校コミュニティ全体を視野に入れつつ、具体的な支援方法をはじめ、現場で役立つ視点を提供しています。さらに授業の後半では、子どもを支援するための心理療法の例として、箱庭おもちゃを置いて「こころ」をほぐす箱庭療法や、絵を描くことで自己治癒力を引き出す描画療法についても、体験的に学習していきます。

## 性格心理学

自分の性格、あの人の性格、そして性格と性格の相性…性格は、いつの世も人にとって大きな関心ごとの一つであり続け、そして心理学でも同様に、重要な研究分野の一つであり続けています。しかし、一口に性格といっても、目に見えず手に取れないそれは、かなり捕まえるににくいものです。「やさしい」性格ってどんなやさしさ？「まじめ」って言葉が意味するところは？…性格の不思議は、挙げれば尽きることはありません。

性格心理学では、こういった性格をどのように捉えて研究しているのか。性格の様々な理論や、性格がどのように形作られているのかについて最新の研究を踏まえてしっかりと解説していきます。この授業を受けると、自分やあの人の性格の理解が深まるとともに、根拠の全くない血液型性格論がなぜ当たっているように錯覚するのか、よく理解できるようになるでしょう。



## 臨床心理アセスメントⅠ・Ⅱ

臨床心理学的な支援においては、人が抱える心理的な苦悩に対して、個人の性格や価値観・態度がどのようにかわっているのか、具体的に把握していく必要があります。心理的な相談内容にまつわる様々な要因の情報を集めて分析し、それを踏まえて具体的な援助方針を立てる、一連の作業は「臨床心理アセスメント」と呼ばれ、専門的な臨床心理学的支援の中核をなす作業です。また、様々な要因の情報収集には、専門的な「心理テスト」が使われることもあります。教育心理コースでは2つの授業をとおして、「心理テスト」の理論や習熟を含み、「臨床心理アセスメント」のやり方について体系的に学びます。



## カウンセリング



体験がないと言葉からはなかなかイメージしにくいカウンセリングですが、本講義では、その始まりから現在に至るまでを丁寧に解説します。カウンセリングの中心は話をカウンセラーに聞いてもらうことですが、人に話すこと・話をじっくり聞いてもらうことが一体なぜ心理的な支援として有効なのか、理論的な背景や効果、そして留意点に至るまで、体系的に学んでいきます。さらに、カウンセリングの基本的な態度であるカウンセリング・マインドを身につけ自らの生き方に取り入れていくことで、人生が豊かになる一助となることも期待しています。

## 心理学研究法

心理学は大きな分類としては社会科学に含まれる分野であり、他の社会科学と同じように、客観的・科学的な手法にのっとり人の「こころ」を分析し、その一般的傾向や法則性を見出していく学問です。そこで重要になってくるのは、分析対象となるデータを客観的・確かな形でどのように集めるか、といった収集方法や、得られたデータを体系的に解析して豊かな情報を引き出していくための分析手法です。

心理学の研究対象である「こころ」は捉えどころのないもので、ターゲットとして幅が広く、そのためデータの集め方や分析手法にも多くの種類があります。この授業では、心理学の研究論文を調べて読むことで、科学としての心理学的データの集め方や分析手順を学んだり、それらを踏まえて実際にデータをまとめて分析してみたりすることで、心理学の研究の「作法」を実践的に学びます。



# 学校教育コース

こんな人にお勧めします！

- 小学校の先生をめざす人
- 人材育成の知識を活かしたい人
- 子どもとかかわる仕事に就きたい人



写真左：4年 丸本瞳さん<富山県出身> 写真右：4年 北陽一朗さん<富山県出身>

## □□ Teacher Education

### コースの特徴

学校教育コースでは小学校の教員を養成しています。子どもたちを理解し、共感する能力を身につけ、学習意欲を高める指導法を実践的に学びます。教員になるには教員免許状が必要です。そのため、学校教育コースでは教員免許取得条件となる科目を系統的に用意しており、学生は1年次から4年次まで順次修得していきます。すべての科目を修得すると、卒業時に小学校教諭1種免許状が取得できます。

また、小学校教員免許状と合わせて、中学校または高等学校の社会(地歴、公民)、数学、理科、家庭、保健体育、英語、特別支援学校、幼稚園の免許状を取得することも可能です。

### 先輩からひとこと

「学校教育コースでは、実際に子どもたちとふれあう機会がたくさんあり、実践的な学びができます。1年の時から小学校に行き、先生方の授業や学級経営を間近で見ることができます。わたしは母校へ約半年通い、様々な授業やクラスの様子を見させてもらったり、講義では聞けないような現場の先生ならではの細かな配慮などを教えてもらったりしました。2、3年になると教育実習があり、実際に子どもたちの前で授業をします。不安や失敗もあり、授業づくりにとても悩み、教員の大変さを実感しました。しかし子どもたちの素直さや明るさにとっても元気をもらいました。実習を経験することでより子どもの素晴らしさを実感することができ、教員という職業にさらに憧れを強く持つようになりました。」

私は幼、小、中、高の教員免許を取得しようと今頑張っています。小学校だけでなく、様々な校種について学ぶことも大きな魅力だと感じます。子どもが好きな人にとっては、子どもについて学び、考え、そして実践できるとても素敵な環境です。教員を目指す仲間同士で助け合い、高めあえるこのコースで自分の力を伸ばし、教員への夢を追いかけてください。」

(4年 丸本瞳さん)

「学校教育コースは小学校の教員を志望する学生にとっても魅力的なコースだと思います。教育学、教育心理学、教科教育学と幅広く教員に必要な学問を学ぶことができます。教科教育学で自分が小学生の頃に受けてきた教科を勉強すると、新たな発見が多くありとても楽しいです。」

また、実践的な学びも充実しています。1年生から学級担任論という科目で学校現場に入り、2年生・3年生と2度教育実習をすることができます。学校現場での学びは、講義では中々学ぶことのできない子どもとの関わり方や先生方の言葉がけなどを学ぶことができます。教育実習で子どもたちに授業をすることで教員としてのやりがいを感じることができ、子どもたちとの関わりは、「教員になりたい」という思いを高めます。

このように1年生の頃から教員になりたいという同じ夢をもつ仲間が周りにいることもこのコースの魅力の一つだと思います。切磋琢磨できる仲間との出会いは大学生活を充実させます。ぜひこのコースで素敵な仲間とともに楽しく大学生活を送ってください。」

(4年 北陽一朗さん)

### 取得可能な免許・資格

学校教育コースでは、小学校教諭1種の免許が取得できます。また、この免許取得を条件として、中学校教諭1種、高等学校教諭1種、特別支援学校教諭1種、幼稚園教諭1種の各免許の取得が可能です。

### 就職状況

学校教育コースという性格上、学生の就職先は教育・学習支援関係が中心です。最も希望者の多い小・中学校、高等学校の教員になるには、都道府県で実施する教員採用試験を受け、合格する必要があります。また、教員採用試験の日時や方法は、都道府県でも公立・私立でも異なります。そのため、年間を通じて「教員採用セミナー」を開催し、採用試験の情報提供や受験指導(志願票の書き方、模擬面接、実技など)を行っています。学校教育コースで学んだ人材教育の専門知識を活

かして、公務員になったり、企業に就職したりする学生もいます。

### カリキュラムの特徴

教員養成を目的としたカリキュラムです。1年次は発達科学概論と基礎ゼミナール、2、3年次は心理学と教育学関係の科目に加え、各教科の講義と実習、各教科の指導法を学びます。2年次から教育実習も始まりです。3、4年次はゼミナール単位で専門的指導を受け、4年次に特別研究として卒業論文を作成します。子どもとのふれあい体験、学級担任論(学びのアシスト)など実践的なプログラムも組まれています。

### 教員一覧と専門分野

- 石井 哲夫(音楽・ピアノ)
- 磯崎 尚子(家庭科教育学)
- 岡崎 誠司(社会科教育学・総合学習教育論)
- 岸本 忠之(数学教育学)
- 米田 猛(国語科教育学・表現指導)
- 坂本 麻実子(音楽学・音楽史)
- 笹田 茂樹(教育行政学・学校評価・教員評価)
- 隅 敦(図画工作科教育学・美術科教育学)
- 土井 徹(理科教育学)
- 橋爪 和夫(体育科教育学)
- 廣瀬 信(教育学・教育史)
- 増田 美奈(教育学・授業研究)



モデルカリキュラムは学部の公式ウェブサイト内にあります。  
<http://www.edu.u-toyama.ac.jp/curriculum/>

# 授業や研究の様子

## 図画工作科教育論



この講義では、小学校の図画工作科の授業を担当するために、必要な知識や技能を獲得することを目的としています。毎回、実際に小学校で使用されている教科書を用いて教材研究を行いながら、指導に求められる基礎的な事項や理論について学ぶことができるようにしています。

写真は、5年生の立体に表す題材「糸のこすスイ」を電動糸鋸を使用しながら学んでいる様子（上）と、5年生の鑑賞の題材「何をかいているのかな？」を実際に富山県立近代美術館で、本物の作品を見ながら行っているところ（下）です。



## 教育実習に向けて



教育実習では、事前の準備や事後の振り返りが大変重要です。「教育実習事前指導」をはじめカリキュラムも充実しています。教員として児童生徒に接する場合の心構えを学び、実習授業のテーマ設定、教材研究、模擬授業などにも積極的に取り組んでいます。もちろん、準備の成果が出る事が理想的ですが、実際の授業ではハプニングや思い通りに行かない事もあります。それらを振り返りながら実習録をつけることも重要です。写真は、実習録や実習に使った教具（上）、学生どうしの模擬授業の様子（下）です。



## 教材開発論



小学校音楽科における内容のひとつ「音楽づくり」の教材を実際につけてみるグループ演習科目です。題材を自分たちで設定し、台本と音楽を作ります。写真は出来上がった教材の使い方のサンプルを発表しているところです。

## 音楽科教育論



小学校で音楽の授業を担当する教員として必要な知識と技能を身につける科目です。写真は、グループに分かれての教材研究で、「こきりこ」を歌とリコーダー合奏に編曲してやってみようというものです。

## スペイン マドリッドでの研修

図画工作科ゼミ生を中心に参加希望者を学部で募って、研究協力関係にあるマドリッド自治大学の教育学部を訪問しています。教育学部の3年次学生と公立小学校の6年生の児童を対象に、絵巻物のワークショップを行いました。現地の学生も児童も、墨で絵を描くのは初めての経験ですが、慣れてくるとどんどん筆を動かしてユニークな作品を仕上げていました。この他にも現地の日本人学校を訪問したり、プラド美術館などの世界的な美術館を見学したり、セゴビアなどの世界遺産を訪れて見聞を広めています。



## 理科教育論



この講義では、「なぜ理科を学ぶのか」、「理科の学習指導方法論には、どのようなものがあるか」といった、理科の授業を行う上での基盤となることについて学習することに加えて、小学校理科で行われる観察・実験を自らが体験しながら、授業を担当するために必要な知識や技能が獲得できるように配慮しています。さらに、小学校理科の授業参観や、自分自身が教壇に立って授業を行う模擬授業を通して、実践力の向上を図っています。

## ゼミ指導の様子

学校教育コースでは3年生からゼミに分かれ、指導教員の指導のもと、2年間かけて卒業論文の作成に取り組みます。教育の哲学や歴史、制度や行政、教育の社会学や方法学、各教科教育の内容や方法など、多様な研究領域の中から学生の関心をもとに研究テーマを設定し、追究していきます。文献にもとづく理論研究、アンケート調査、参与観察、フィールドワークなど、追究の方法も多彩です。



## 卒業論文中間発表会



3年生は毎年、3月上旬にそれぞれ所属したゼミで1年間自主的に学んできた研究内容について、中間発表を行います。

他のゼミの教員や同学年・後輩の学生たちから、いろいろな質問を受けて回答しながら、さらに卒業論文の完成に向けて研究内容の充実を図っていきます。

## 地域交流活動論

この講義では学校から地域へどのような連携を投げかけて交流を行ったらよいのかについて、求められる知識や態度を育成することを目的としています。毎回、学校における地域交流の事例を紹介したり、外部講師を招聘したりして、最終的には、受講生が企画した地域交流活動を画用紙1枚にまとめてプレゼンテーションを行います。

写真は、招聘した大島絵本館事務局長さんに絵本の読み聞かせの実演をしていただいている様子です。



## 協力校での教育実習



教育実習は附属学校だけではなく、協力学校にもお願いし、学生を受け入れる体制を整えていただいています。大学では学べない発問の仕方、板書の仕方、児童との接し方など、実際に教育現場に立ったときに役立つ内容について、学生達は丁寧な指導を受けられます。

このようにコースに所属する学生が教師として求められる資質や能力を身につけるための環境と体制について、常に心を配っています。

## 図画工作科ゼミ室での様子

ゼミ室で、それぞれが、次回のゼミで発表する教科書題材を実際に制作したり、自分のレポートをパソコンでまとめたりしています。この部屋には、図画工作に必要な材料や用具が収納されており、いつでも図画工作の教材研究ができるようになっています。本ゼミでは、3年で小学校で使用される教科書題材を制作しながら、指導と評価についてのレポートをまとめ、図画工作や美術の教育理論について学んだ上で、4年からの卒業研究に向けての準備をしています。



## 総合学習教育論



総合的な学習の時間は、教科の学習と異なり、教科書がありません。児童生徒が自ら学習の課題を設定し、情報を収集し、それを整理・分析し、その結果をまとめ、表現します。この講義では、児童生徒が自ら課題を設定するための教師の支援、児童生徒が主体的に情報収集を進めるための教師の支援などを学びます。文献等を基にしながらも、受講者同士の話し合いを中心に、具体的な支援や指導の方法等を考えます。教師になったときに必要な実践的な力を付けることをねらいます。

## 理科教育ゼミ室での様子



理科教育ゼミでは、卒業論文執筆に向けての文献調査、質問紙調査やインタビュー調査等の方法およびその分析方法の習得と並行して、小学校の理科授業を行うために必要な知識や技能を獲得することも行っています。教科書に掲載されている観察・実験を実際にやってみて、指導のポイントや指導展開などについて学生と先生が語り合う時間をゆったり確保しています。

# 発達福祉コース

こんな人にお勧めします！

- 子どもが好きでいっぱいかわってみたい人
- 保育や福祉の資格を取りたい人
- 障がいのある人や高齢者のサポートをする仕事につきたい人
- 幼稚園・小学校や特別支援学校の先生になりたい人



写真 左：4年 浦野圭司さん<富山県出身>  
写真中央：4年 板倉佳代さん<富山県出身>  
写真 右：4年 高木悠里さん<富山県出身>



## □□ Human Development and Welfare

### コースの特徴

乳・幼児期から高齢者までの生涯発達を視野に入れ、人々のクオリティ・オブ・ライフをいかにして高めていくことができるかを考えていくコースです。授業だけでなく、体験や実習を通して様々な人と接する機会が多いのもコースの特徴です。コースの中は「特別支援学校の教員免許の取得」「社会福祉士の受験資格の取得」「幼稚園の教員免許と保育士資格の取得」をめざす3つのサブコースに分かれています。特別支援を必要とする子どもの発達とその支援、福祉支援の専門知識と技術、子どもの発達段階に合わせた支援等を身に付け、現場で広く活躍する人材を養成します。

### 先輩からひとこと

「社会福祉士とは、専門的な知識や技術を用いて支援を必要とする人たちの問題解決にあたる専門家です。社会福祉士とは国家資格の1つであり、この国家資格を取得するために社会福祉サブコースでは日々勉強に励んでいます。人数は少ないですが先生と学生の繋がりは強く、1人1人が楽しみながら学習に励んでいます。

私は社会福祉士になるために必要な講義や演習、実習を受け、それらを通して広い分野における福祉的支援や面接技術、支援を行う上での社会福祉士にとって必要な視点について学んできました。また講義や実習を通して、自己理解を深め、自分の理想とする社会福祉士を目指しています。

私は将来このコースで学んだことを活かし、地域で福祉的支援を必要としている大勢の人たちのために働く社会福祉士になりたいと考えています。これからの社会において福祉を必要とする人が増えるため、福祉にかかわる専門職として社会福祉士は大きな役割を果たしていると思います。「将来福祉にかかわる仕事がしたい」「福祉を必要とする人たちのために働きたい」と考えている人は、ぜひ社会福祉士を目指して勉強してほしいです。」

(4年 浦野圭司さん・社会福祉士サブコース)

「幼児教育サブコースでは、主に保育士資格、幼稚園教諭免許を取得希望の学生が、保育に関する学びを深めています。講義では専門知識を学び、実習では実際

に子どもたちとふれあい現職の保育者の指導を受けることで、実践と振り返りを繰り返し、保育者としての専門性を身につけていくことができます。

講義も、実習などの実践も、同じ保育者を目指す仲間とグループになり学習を進めることが多いです。自分の考えが行き詰まったとしても、仲間と助け合い、様々な考えを出し合うことで自分の「保育観」を見つけていくことができます。

このサブコースに入れば、仲間と一緒に過ごす時間が長い分、お互いを高め、支えながら4年間を一緒に過ごす大切な仲間を見つかることもできると思います。子どもと関わりたいと考えている皆さんが、素敵な保育者を目指せるよう応援しています。」

(4年 板倉佳代さん・幼児教育サブコース)

「特別支援教育サブコースでは、学校での特別支援教育をはじめ、障害児・者の社会参加や日常生活、障害特性や背景、その家族や関係諸機関などを、座学にとどまらず、実践や見学などの体験を通して、障害児・者の人生をトータルで学ぶことができます。

一人ひとりに適した指導、将来を見据えた指導は知識だけで行えるものではなく、実習や実践の中で困難を感じることもよくあります。その時に助けてくれるのは、考えを気兼ねなく言い合える仲間、専門分野の異なる広い知見をもつ先生方であり、その存在は心強いです。そしてその困難を越えたとき、自らの成長を感じられます。

私は障害のある子どもたちが通う特別支援学校の教師を目指して勉強に励んでいます。ここでの経験をもって、子どもと関わる様々な立場の人と協力をしながら、その子にとっての最善を見出だせる教師になりたいと思っています。」

(4年 高木悠里さん・特別支援サブコース)

### 取得可能な免許・資格

発達福祉コースでは、特別支援学校教諭1種免許(小学校教諭免許取得が必要となります)、幼稚園教諭1種免許、保育士(定員20名)、社会福祉士受験資格(定員10名)、小学校教諭1種免許が取得可能です。また、小学校教諭1種免許の取得を条件として、中学校教諭1種免許、高等学校教諭1種免許が取得可能です。

### 就職状況

特別支援学校の教員免許を取得した学生は小学校教諭(特別支援学級を含む)や特別支援学校教諭、障害者福祉に関する業務(公務員や施設職員)をめざしています。

幼稚園の教員免許と保育士の資格を取得した学生は幼稚園教諭、保育所または認定こども園、児童福祉に関する業務(公務員や児童厚生施設の職員)をめざしています。

社会福祉士の受験資格を取得する学生は社会福祉士の国家試験を受験して資格を取得の後、福祉行政、医療機関、社会福祉協議会などのソーシャルワーカーをめざします。

### カリキュラムの特徴

発達福祉コースは、社会福祉士をめざす場合、特別支援学校教諭をめざす場合、幼稚園教諭と保育士資格をめざす場合のそれぞれに、免許や受験資格取得に必要な授業科目が大きく異なっています。また、それぞれの免許を出す事ができるサブコースの定員が決まっているため、コース選択、及び取得する予定の免許の選択に当たっては、十分な検討が必要です。基礎ゼミナールなどで教員に相談ののってもらいながら、自分の進路をしっかりと見極めることが重要です。

### 教員一覧と専門分野

- 小林 真(臨床発達心理学・精神保健学)
- 志賀 文哉(健康社会学・社会調査法)
- 千田 恭子(声楽・舞台芸術)
- 西館 有沙(保育学・児童福祉学)
- 野田 秀孝(社会福祉援助技術・医療福祉・地域福祉)
- 水内 豊和(発達障害臨床・家族支援)
- 宮 一志(小児神経学・障がい児医学)
- 若山 育代(幼児教育学・保育内容論)
- 和田 充紀(特別支援教育)



モデルカリキュラムは学部の公式ウェブサイト内にあります。  
<http://www.edu.u-toyama.ac.jp/curriculum/>

# 授業や研究の様子

## ソーシャルワーク実習指導



ソーシャルワーク実習指導では、現場の指導者を招いて実習報告会を行います。学生は、約5週間にわたって実習で学び経験したことをスライドにまとめ、わかりやすく説明します。理想のソーシャルワーカーに近づきます。

## ソーシャルワーク



個人、家族、小集団・組織、地域社会をクライアント・システムとしてとらえて、どのような対象者であろうと、ソーシャルワーク援助できる理論と実践法を学び、ケースマネジメントやネットワークングについても考察します。

## 保育内容（言葉）



幼児の言葉を育む保育を展開していくための知識や技術を習得します。写真は、県内で人気のパネルシアターの講師を招き、その実演方法を学んでいる様子です。

## 卒業論文中間発表



3年生から専門のゼミナールに所属し、4年生4月からの、卒業論文執筆に向けて、自分自身の問題意識、研究方法、卒業論文の構想などを個別発表し、質疑応答などを通して、論文を仕上げる準備をしています。

## 卒業論文発表



大学4年間の学習・研究成果を卒業論文発表の場で、ポスターにまとめ発表するとともに、個別発表をします。後輩などからの盛んな質疑に回答し、4年間の成果を示します。

## 知的障害児の教育診断臨床 I

知能や心身の発達に関する様々な評価方法について学習します。知能検査や発達検査は机上で学習するだけでなく、附属学校園との連携のもと実際に実践も行います。心理評価法に関して実践を伴う本学部唯一の講義です。



## 知的障害教育総論



知的障害児・者の教育を中心に、福祉、就労、余暇など生活全般における支援について学ぶ科目です。写真は富山大学で働いている知的障害者に、働く意義や喜びなどについて学生がインタビューをしているところです。

## 保育内容（表現）・音楽



幼児の感性と表現を育むための科目の中で音楽に関するものです。写真は、聴覚に注目し、簡易楽器（ハンドベル）を使用してアンサンブルをすることにより、音色や響きを楽しんでいる様子です。

## 相談援助（保育演習）



保育士が行う相談援助について学ぶための科目です。毎週、被虐待児への支援や障害児の保育支援の事例などを調べ、保育士ができる援助や、他の専門機関との連携について話し合います。

## 保育実践演習



保育に関する科目横断的な学習能力を習得します。様々なテーマを設定しており、学生が選択することができます。写真は、地域のセンターで手作り紙芝居を読み聞かせたり手遊びをしたりしている様子です。

## 知的障害児の教育 I



知的障害のあるお子さんの発達を支援する教育方法について学びます。実際に障害のあるお子さんとかかわり、自分たちで活動内容の考案や支援ツールの作成とおして、支援力アップを目指します。

## 保健医療論



保健医療領域においても、傷病や疾病により生活・福祉問題を抱えることが多くあります。保健医療サービスの時代的変化をとらえるとともに、それに伴う生活・福祉課題を的確にとらえて、相談援助を遂行できる力を学びます。

## 特別支援教育学



障害児の教育について講義や演習を通じて学ぶ科目です。写真は知的障害者の就労継続支援事業所を会場として、障害児・者と地域住民との自然なふれあいを目的とした学生企画のイベントをおこなっているところです。

## 社会福祉援助技術論



社会福祉の援助技術は時代とともに変化する人・社会に合わせて発展してきました。社会福祉を実践していく上で、実践者であるソーシャルワーカーに必要な、「総合的かつ包括的な相談援助」技術の基礎を学びます。

## ソーシャルワーク演習



実践能力の高い社会福祉の専門家になるためには、社会福祉の各分野や社会保障に関する知識が不可欠です。それを自由に使いこなす技術力が求められます。個人に対する相談援助から地域に対する援助まで幅広く演習します。

## 保育内容（表現）・造形



幼児の感性と表現を育む保育を展開していくための知識や技術を習得します。写真は、かいだり味わたりする感性を磨くことをねらいとし、附属農場で育った柿の素材研究をしている様子です。

## 地域福祉論



社会福祉の新しい考え方である「地域における福祉の推進」をテーマに、今日的な生活をする上での福祉課題を、地域でどのように解決していくシステムを構築していくための基本的な理論を学びます。

## 保育内容（環境）



子どもと自然体験について学ぶ実践的な授業科目です。動物園（富山市ファミリーパーク）では飼育体験や小動物に触れる体験をします。また立山青少年自然の家では、野外の自然物を利用して幼児と実際に遊びます。

## 知的障害児の心理 I

知的障害や学習障害、自閉症スペクトラム障害、注意欠陥多動障害といった発達障害、また小児の心身医学的な問題を病態から解説します。特に知的障害・発達障害を医学的な側面からとらえていくことが本講義の大きな特徴です。



## 知的障害児の教育 II



「朝の会」「チャレンジタイム」「生活単元学習」など、障害の特質に応じて行われる、特色ある授業の内容や方法を学びます。知的障害特別支援学校で実際の授業を参観し、授業づくりの基礎を知ることができます。

# 人間環境システム学科 地域スポーツコース

こんな人にお勧めします！

- 体育の先生を目指す人
- スポーツ指導者を目指す人
- スポーツや健康関係の仕事に就きたい人
- スポーツを心から愛している人



写真左：4年 北山泰聖さん<石川県出身> 写真右：4年 宮崎涼寧さん<富山県出身>

## □□ Community Sports

### コースの特徴

保健体育の教員および地域スポーツの指導者をめざす人のコースです。明るく豊かで活力のある社会を実現するためには、生涯にわたってスポーツができる社会が必要であると言われています。そのためには国の政策はもちろんのこと、地域のスポーツ活動が盛んでなければなりません。地域スポーツコースでは、スポーツ文化、スポーツマネジメント、スポーツ医学、健康科学、野外活動等の授業を通じて専門性と実践能力を身に付けてもらい、学校教育・行政機関・地域スポーツクラブ・スポーツ産業・健康産業などを通じて、地域のスポーツ支援、スポーツ振興、健康増進などにたずさわる人材「健康を支えるスポーツリーダー」を養成しています。

### 先輩からひとこと

「私は4歳から地元富山で体操競技を続けています。高校では怪我に悩まされ、思うように競技ができず悔しい思いをしたため、大学でもう一度頑張りたいという思いがありました。そして将来を考えたときに、ここ富山で体操競技を始め、スポーツの楽しさを教え、広められる職業に就きたいと思い、教員やスポーツ指導者を目指すことができる地域スポーツコースに入りました。

現在体操競技部で活動しており、全日本インカレには2度出場することができました。大学では部活だけでなく、授業も楽しいです！地域スポーツコースでは専門的な知識や技術はもちろん、実践能力を身につけることができます。特に、夏季・冬季の野外活動実習ではとても貴重な経験ができます。日常から離れた環境で、他学年と交流し、山や海などの自然と触れ合うことで大きな感動を得られました。

ぜひ皆さんもこの地域スポーツコースで、スポーツが大好きで、とにかく熱い仲間と個性が強い先生方と共に、楽しく、実りのある学生生活を送ってください！」

(4年 宮崎涼寧さん)

「私は、身体を動かすことが好きで、スポーツについて学びたいと思っていたこと、また保健体育の教師になりたいと思っていたため、地域スポーツコースに進みました。

このコースでは体育授業について必要なことを学ぶことができ、自分の知らない運動についても知識を深めることができます。野外活動実習では、夏は海や山、冬はスキーについての指導技術の取得をはじめ、学生主体の企画・運営を通して、大きな達成感を、良い仲間と共に味わうことができます。

また、教育実習では、このコースの学生で真剣に話し合いながら準備を行い、より良い実習にすることができました。この経験があり、私は教師になりたいと改めて思えました。

ぜひ教師を目指す人、運動が好きな人、それ以外の人でも、地域スポーツコースにしか味わえない感動と体験を通して夢の実現を目指しませんか。」

(4年 北山泰聖さん)

### 取得可能な免許・資格

地域スポーツコースでは、中学校教諭1種免許(保健体育)が取得可能で、この免許の取得を条件として、小学校教諭1種免許、高等学校教諭1種免許(保健体育)を取得する事が可能になります。

### 就職状況

学校教員、国・地方公務員(県庁・市役所職員、警察官、消防士、自衛官、刑務官など)、総合型地域スポーツクラブ・民間スポーツ施設の指導者および運営スタッフ、健康・スポーツ振興財団や体育協会の職員、各種福祉施設職員、病院職員、マスコミ関係(スポーツ新聞・テレビ局など)、スポーツ産業、一般企業等(自動車産業・銀行・製造業など多数)

### カリキュラムの特徴

1. 高度差4,000mを誇る日本海と立山の豊かな自然のなかで行う野外実習(立山登山・臨海実習・スキー実習)
  2. スポーツ文化やスポーツ医学などの専門知識と、それらを現場で活かすことのできる実践能力を養う演習および実習(地域スポーツ演習・インターンシップ・教育実習)
- などの学習内容を重視しています。仲間とともに学び育つこと、そしてそれを指導することは、教員としてスポーツ指導者として、いま社会から強く求められています。

### 教員一覧と専門分野

- 大川 信行(スポーツ史・バスケットボール)
- 神野 賢治(スポーツ社会学・スポーツマネジメント)
- 佐伯 聡史(スポーツ運動学・体操競技・器械運動)
- 澤 聡美(スポーツと発育発達・身体表現)
- 布村 忠弘(スポーツ医学・学校保健)
- 福島 洋樹(スポーツ心理学・陸上競技)
- 堀田 朋基(身体運動学・サッカー)
- 水谷 秀樹(体育原理・地域スポーツ概論)



モデルカリキュラムは学部の公式ウェブサイト内にあります。  
<http://www.edu.u-toyama.ac.jp/curriculum/>

# 授業や研究の様子

## スポーツ医学



スポーツ傷害の概要とスポーツ傷害を起こす要因について学び、スポーツの現場でできることは何かを考える。整形外科から「休めば治る」と言われたらどう捉えればよいのか、「やれば痛くなる」のをどう克服すればよいのか分かる。

## スポーツ指導論

運動指導を効果的に行う際には、その前提として運動学習理論を理解しなければならない。「運動技術」「運動技能」「運動構造」「達成力」「運動習熟」「運動の観察」「運動モルフロジー」「運動ゲシュタルト」「運動の学習転移」などの各項目についての論理的な理解をもとに、スポーツ・運動指導の方法について解説している。



## スポーツ心理学

スポーツのコーチングでは、いかに選手のやる気を高め、そのスポーツの醍醐味を感じさせ、魅了させるか。それには、今までできなかったことができるようになるといった喜びを感じさせなければならない。効率的で創造的で質の高いスポーツ・コーチングを求めて、運動の技能を習得する過程である「運動学習」と、人間の行動を起こさせる「動機づけ」について、心理学の理論的な背景を絡めながら応用する授業。

## スポーツ史

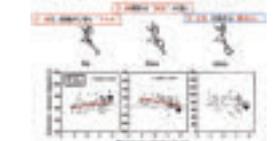
体育・スポーツは単なる身体活動ではない。歴史的にみても、これらは「文化」なのである。その文化を人類史的スパンから捉えた時、そこにみえてくるものは何か？時代や地域、民族の違いによってこれらはどのように変容してきたのか？そして、今日われわれが享受している体育・スポーツ文化はいかに在るべきなのか？この授業では、これらの問題について哲学、歴史学、人類学的方法からアプローチするとともに、体育・スポーツに関する思索力を高めることを目的としている。

## スポーツマネジメント



スポーツの産業化とともに、スポーツに関連する仕事が増えました。スポーツを商品とし売買をする「マーケティング」やスポーツを利用して仕組みづくりをする「マネジメント」について、具体的な手法を学び研究します。また、現場の企業・団体（プロスポーツクラブ、行政等）において企画・運営などを実践していきます。

## バイオメカニクス



基本的な運動（走・跳・投）における身体の動きのメカニズムを生理学的、力学的、解剖学的観点から概説する。基本的な運動（走・跳・投）における身体の動きのメカニズムを生理学的、力学的、解剖学的観点から理解し、説明できるようになる。

## スポーツ動作分析法



地域スポーツ支援に関する科目として、各種スポーツにおける動作の撮影方法について学び、各種スポーツ支援の一助となることをねらいとしている。動作を撮影する際のカメラの設定方法、撮影場所の設定等について理解し、各種スポーツに適した動作を撮影できるようになる。

## トレーニング実験実習



身体運動を実施する際に欠かすことのできない体力についての現状把握と、体力向上のためのトレーニング方法について理解し、実践できるようにする。

## 器械運動



学校教育で行われる器械運動（マット・とび箱・鉄棒）の指導法を学ぶ前提として、中学校・高校の授業で行われるレベルの技の習得を目指す。

マット・とび箱のハンドスプリングや、鉄棒の前方・後方支持回転連続、け上がりなどの習得を目標としている。

## バレーボール



バレーボールは遊べるようになるまでのハードルの高いスポーツであるが、授業では初心者ですぐに遊べるようになるための指導法を学び、「つなぎのスポーツ」と言われるバレーボールの楽しさを体験する。

## 地域スポーツ演習



「健康・スポーツ」をキーワードに、地域に対してサービスを創出する授業。「ヒト・モノ・カネ・時間・環境」に制約される条件のもと、企画・運営・管理をおこない、実務を通じて、その問題点や限界について議論を深め、企画を遂行・統括する視点を身につける授業。

## 夏季野外活動実習（臨海／登山）



夏季野外実習は海と山を1年おきに実施している。「臨海」では、宿舎・食事・安全管理などの重要事項を学生が中心となって企画・運営する。皆で自炊し、集団で遠泳を行うことで「協力してやり遂げる力」を養う。

「登山」では、剣・立山を中心とした富山県の北アルプス登山を通して、自然環境に柔軟に適應する能力を養う。

## 冬季野外活動実習（スキー）



長野オリンピックが行われた志賀高原スキー場でアルペンスキー技術を学び、様々な変わる自然環境の中で集団として行動する際のポイントを身につける。

## 救急法



心肺蘇生法など、現場で求められる応急手当の方法について実践し、体育教師、スポーツ指導者の責任について学ぶ。

写真はケガの応急手当 RICE の実習。

## 地域スポーツ概論

体育・スポーツの定義、目的、目標、内容、方法などに関する代表的な考え方を概観し、現代体育・スポーツが抱える諸問題を探る。

## スポーツ栄養学



栄養学の知識を実践に結びつけることを第1の目的としている。現在の運動量、体格、栄養バランス、栄養素の過不足を調査し、自分の課題を見つける。授業で学んだ基礎的な知識を基に、スポーツ選手にふさわしい生活習慣や食事のあり方を検討する。

## 身体コミュニケーション



ストレッチングなど自分の体をケアする方法を通して、自分の体に気づき、自分の体との対話さらに他人の体との対話ができるようになる。体との対話と動作学習の関係についても学ぶ。

## 運動生理学



人体生理学特に運動時の生理学的応答について解説する。運動中の人体の生理学的応答について理解し、実践に生かすことができるようになる。

# 人間環境システム学科 環境社会デザインコース

こんな人にお勧めします！

- 中学校の教員（理科・社会・家庭）をめざす人
- 専門知識を身につけた公務員をめざす人
- 環境問題に関心のある人
- 生活環境を改善する仕事をしたい人



写真左：4年 福澤瑠璃さん<富山県出身>  
写真右：4年 狭間海斗さん<和歌山県出身>

## □□ Environmental Design Research

### コースの特徴

グローバルな視点から自然・生活・地域社会の諸問題を総合的に把握し、実務を的確に処理して社会に貢献する人材を養成する事をめざして、学部内でもっともバラエティに富んだ120あまりの授業科目を開設しています。これに対応して、物理、化学、生物、地球科学、科学ジャーナリズム論、地理、歴史、経済、法律、世界政治、住居学、アパレル科学、栄養学、身体運動工学と多岐にわたる専門の教員がおり、学生は自分の関心や将来の進路を考慮して、学ぶ科目を自由に選択する事ができます。さらに特別研究では、特定分野の内容を深く追究する事も、複数教員の指導による学際的な研究をする事も可能です。

### 先輩からひとこと

「環境社会デザインコースの魅力は、文理や教員免許取得の有無に関わらず多様な科目を受講できる点だと思います。座学だけでなく実習などで外へ出る機会もあり、体験しながら学ぶことができる点も魅力の一つです。

私は正直なところ、入学時からはっきりと学びたいことが決まっていたわけではありませんでした。ただ、様々な授業を受ける中で自分の興味が定まりはじめ、現在は国際政治学研究室に所属しています。さらに、海外での暮らしを経験し、英語を勉強したいと考え、8か月間のカナダ留学を経験しました。そこでは、学部の職員さんや先生のご家族からの支援もいただき、友人にも恵まれ、充実した生活を送ることができました。

また、進路も教員・企業・官公庁など様々です。目標に向かって進む仲間たちと教え合い、励まし合いながら、進路を定めることができます。

これから入学される皆さんの中には、まだ専門的に学んでみたい分野や就きたい職業がはっきりと決まっていない方もおられるかもしれません。しかしこのコースには興味を持って取り組めることを見つけれられる環境が整っています。

大学内外での様々な経験や人との出会いを通し、楽

しい大学生活を送っていただきたいです。」  
(4年 福澤瑠璃さん)

「環境社会デザインコースは、あらゆる分野の諸問題を総合的に解決するために、偏らない物の見方や問題解決能力を身に付けることができます。このコースでは様々な授業科目が開設されており、学生は自分の興味や関心、将来の目標に向かって授業の選択や教員免許(理科・社会・家庭)の取得が可能になっています。

私の専攻は理科分野で、化学・物理・生物・地学の座学に加え、実験や巡検などの講義もたくさん受講してきました。現在は地質学研究室に所属して、地震や津波などの災害における事前復興や減災などの研究を熱意をもって楽しみながら行っています。

所属している学生の進路は、教員、公務員、一般企業など様々です。まだはっきりとした進路が決まっても、大学生活での出会いや体験、一つの分野に捉われずいろんな科目を選択することで、将来に向かって道は開けるのではないのでしょうか。

これから入学される学生の皆さん、勉強以外にも部活や語学留学などたくさんのことにチャレンジして経験を積み、充実した大学生活を送るには、環境社会デザインコースはとても魅力的だと思います。」

(4年 狭間海斗さん)

### 取得可能な免許・資格

環境社会デザインコースでは、中学校教諭1種免許(理科、社会、家庭)が取得可能で、これらの免許の取得を条件として、小学校教諭1種免許、高等学校教諭1種免許(理科、地歴、公民、家庭)を取得する事が可能になります。

### 就職状況

本コースが育成する学際的な視野と実務能力を兼ね備えた人材はさまざまな職種で評価され、多様なフィールドで活躍の場を広げています。本コースのバラエティに富んだスタッフとカリキュラムを学生たちが思

う存分に活用して、自分が本当に進みたい分野を発見し、社会に羽ばたいていく事を期待しています。

主な就職先・進路：小学校教員、中学校教員、高校教員、地方公務員、警察、銀行、一般企業など、その他大学院進学

### カリキュラムの特徴

文系・理系にとらわれないものの見方や問題解決能力の育成を目指します。なかでも複数教員が指導するプロジェクト型授業が特徴的です。2年次「プロジェクト研究」では、地震や食などの学際的テーマを題材に、課題発見から問題解決に至る研究方法を学び、1つのプロジェクトの企画から運営まで学生が取り組みます。このような取り組みにより4年次の特別研究や卒業後の進路につながる実践的なスキルを身につけます。

### 教員一覧と専門分野

- 秋月 有紀(住居学・建築環境工学)
- 池田 文佑(世界政治学)
- 片岡 弘(物理化学)
- 桐座 圭太郎(地質学・減災教育)
- 孫 珠熙(被服構成学・ファッションビジネス・被服心理学)
- 高橋 満彦(環境法(自然保護・動物・農業))
- 徳橋 曜(歴史学・イタリア中世史)
- 鳥海 清司(身体運動工学・身体教育学)
- 中村 只吾(日本史学(近世史))
- 成行 泰裕(宇宙プラズマ物理学・物理教育)
- 根岸 秀行(地域経済学・経済史)
- 林 衛(カリキュラム開発研究・市民社会メディア論)
- 藤本 孝子(栄養学・食品機能学)
- 安本 史恵(生命科学・神経科学)
- 山根 拓(人文地理学・近代歴史地理学・都市地域学)



モデルカリキュラムは学部の公式ウェブサイト内にあります。  
<http://www.edu.u-toyama.ac.jp/curriculum/>

# 授業や研究の様子

## プロジェクト研究



環境社会デザインコース独自の必修授業。研究とはいかなるものかを体験的に学ぶ。また、一つの研究テーマに複数の人数で取り組むグループワークについても学ぶ。写真は研究報告会の模様。

## 衣環境デザイン実習



自分サイズ、自分デザインの衣服を製作する。パターンデザインから洋裁まで実習を行う。フランス式パターンデザインを体験する。スカート、キュロットスカート、ワンピースを製作した。笑顔で達成感はずい！

## カラーコーディネート論



色彩の基礎理論、心理的効果、色彩調和論などについて講義する。また配色カードを用いて、色彩調和の形式や配色技法に関する演習を行う。さらにインテリア等の具体的な色彩計画についても解説する。

## 人間社会の地理学



「地理学とは何か？」を考える。地理学伝統の変遷を辿り、様々な対象・社会現象を地理学的に考察する方法を学ぶことにより、地理学的視角 (Geographical Perspective) を理解する。

## 地理学フィールドワーク



地理学の現場を体験し、調査研究を体感するための授業。写真は大巡検で訪れた神戸震災メモリアルパーク。

## 都市景観論



都市計画における美観整備や歴史的建造物の保存、広告規制、景観法などの法整備について、各国の都市の取り組み事例を踏まえ解説する。また町並み景観整備に積極的に取り組んでいる富山市八尾地区等を視察する。

## 基礎地域史



地域史の視点・方法を学ぶ。越中・富山を含めた諸地域の、特に近世以降の歴史を対象に、地域での生き方、地域史が現代社会に持つ意味などを考える。写真は富山市長慶寺の五百羅漢。

## 睡眠学



睡眠学では、日本人の多くがなぜ睡眠不足になりがちであるのか、また子ども達の発達と睡眠習慣の確立には心身の健康だけではなく、学力にも影響することなどを最新の研究データに基づいて、解説している。

## 生活環境デザイン



限られた部品で平屋の設計を行い、鉛を投票箱にしてコンペを行なっている様子。

## 基礎物理学実験



物理学の基本法則を簡単な実験を通じて理解することを目標とする、中高理科免許の必修科目。測定方法や実験手順をグループ内で考えながら実験を行う中で、主体的に理科実験を行う力を養う。

## ヒトの動きの力学的解析



「写真に写っている彼、柱にどれほどの力を加えているだろうか。彼の体重は m kg である。」「彼が腕立て伏せをしたら、腕にかかる力はどれくらいか。」など、人の動きや力のかかり方について考える。

## 地理情報学



位置情報の意味や利用などについて学び、さらに活用できるようにする。各人のテーマに応じて情報を収集して地理情報システムを作成し、成果を報告して相互に検討しながら、さまざまな現象の分析を進めている。

## 栄養学



各栄養素の分類、体内での働き、消化と吸収などの栄養に関する基礎知識及び健康と食物摂取との関わりについて学ぶ。

## 科学技術巡検



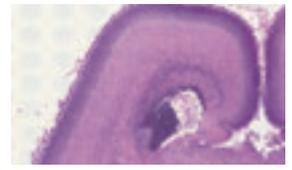
わたしたちの生活に深く関わる科学技術施設の視察を通して、環境、エネルギー、健康など現代社会が抱える問題を考えるための複合的な視点を養う。

## 地学ゼミ巡検



地学ゼミでの巡検。この日は、神岡鉱山内 (岐阜県飛騨市) に重力波検出装置のため、新たに採掘中のトンネル内部を見学。爆薬や重機を用いた採掘法、露出した岩石の特徴を実地で学んだ。

## 基礎生命科学実験



組織学総論・各論に関する実習を行っている。組織の形態にはその器官特有の機能が表現されることを、実感してもらう。写真は脳の組織。

## 世界システム概論

西洋史を概観する授業だが、単なる概説ではない。ウォーラステインの近代世界システム論を枠組みに援用しつつ、西洋史に関する基本的・概括的な認識・知識を修得するとともに、地域史にこだわらずに歴史を広く捉える視座を持つことを目標として、授業を進めている。授業は講義形式で、資料プリントやパワーポイントを使って行われる。

## 都市減災論



災害には、耐震性のない建物の倒壊や原発安全神話などによって人的・経済的被害が大きくなるという人災の要素がある。人災であれば対処可能であり、都市社会に潜む人災の構造を考察し、減災の方法を論じる。

## 栽培技術実習



本学部が保有する附属農場で行われる授業。キュウリ、ナス、トマト、じゃがいも、さつまいもなどだけではなく、米、エゴマ、花卉などの様々な作物を種から育てて、収穫を楽しんでいる。

## 経済学演習



「原資と地域経済」に関する卒業作成中の4年生のため、全員で志賀町役場資料の撮影を行った際のショット。ゼミのモットーは、「One for all, All for one」。

## 人間環境システム学科

# 人間情報コミュニケーションコース

こんな人にお勧めします！

- 英語力を活かした仕事をしたい人
- IT企業で活躍したい人
- メディアクリエイターを目指す人
- 数学、英語の先生を目指す人



写真左：4年 竹村和香さん<富山県出身>

写真右：4年 堀真之輔さん<長野県出身>

## Information and International Communication Sciences

### コースの特徴

国際化、情報化時代にある現在、言語、ICT（情報コミュニケーション技術）等の手段を駆使し、多様な文化的背景を持つ人々と協力して、地域レベルから国際的な諸分野まで活躍できる人材が求められています。人間情報コミュニケーションコースでは、言語、ICT、数理、メディアによるコミュニケーション能力を育て、新たな時代を切り開いていく人材を養成します。特別研究では、新しいコミュニケーション能力、表現方法の探求、支援技術や指導方法の開発など、バラエティに富んだ研究領域から選択し、深く追究していきます。

### 先輩からひとこと

「人間情報コミュニケーションコースでは、言語、数理、メディア、ICTなどこれからの時代に求められる、幅広い分野を学ぶことができます。私は、ある授業を受けたことでコミュニケーションに興味を持ち、そこから今は方言について研究しています。方言といってもことばそのものではなく、方言から受ける印象について調べています。実は、私もともと英語を専門に学ぼうとしたこのコースを選びました。しかし私のように途中で興味の対象が変わっても方向性を変えられるのは、幅広い分野を扱っているこのコースならではの利点だと思います。また、このコースには教員志望の学生はもちろん、そうでない学生もたくさんいます。それぞれ分野が違う仲間が身近にすることで刺激し合い、自分の価値観が広がります。そして価値観が広がれば将来の選択肢が広がることにもつながります。

このコースでは、はじめから自分の可能性や興味の対象を限定せず、幅広い分野を学ぶことで多くの『発見』と『仲間』に出会えます。あなたも人間情報コミュニケーションコースで未来の可能性を最大限に広げてみませんか。」  
(4年 竹村和香さん)

「人間情報コミュニケーションコースには、主に言語、情報・メディア、数理といった分野があります。また、それぞれの中でさらに分野が細分化されるので、学びの選択肢は多岐にわたります。これら全く異なる分野を幅広く学べる

ことがこのコースの大きな魅力です。そして最終的には、自分が最も興味をもった分野でテーマを決めて研究していくこととなります。

私はコースでは数学を専攻しており、将来は数学の教師を目指しています。大学の数学を学んでいると、高校までに学んできた数学の本質をよく理解することができます。たとえば、高校では証明されなかった公式がどのような考えから導かれているのか学んだり、実際に証明したりします。純粋に数学という学問に向き合えることはもちろんですが、講義を通して得た数学の知識は、教師として数学を教える際の基盤になっています。

また、自分の専門以外の分野についても積極的に学んでいます。たとえば、英文多読を通して語彙に関する知識を身につけたり、ICTの教育利用を考えたりetc...こうして多種多様に学ぶことで、様々な知識を得るとともに人間的にも成長できると思っています。みなさんも粋にとらわれず、好奇心や知識欲を膨らませて色々なことを学んでほしいと思います。多くの分野が混在するということは、それだけ異なる価値観をもった学生が多くいます。講義や日常で他の学生と関わることで、お互いに刺激し合い、学び合うことができます。そうすることもまた、自身が成長する大切なきっかけとなります。

大学生生活は良くも悪くも自分の意志が試されます。いろいろなことに挑戦できることが大学生の特権です。一つのことにとどまらないこのコースで、あなたを自分好みの色に染めてみませんか？」  
(4年 堀真之輔さん)

### 取得可能な免許・資格

人間情報コミュニケーションコースでは、中学校教諭1種免許(数学・英語)が取得可能で、これらの免許の取得を条件として小学校教諭1種免許、高等学校教諭1種免許(数学、英語)を取得する事が可能になります。

### 就職状況

どの分野の職種でも、コミュニケーション能力は最も求められる能力です。また、情報や言語、表現といった専門的

知識を活かし、様々な活躍の場を広げています。大学院進学者を除いて、これまでの卒業生は、学校教員、国・地方公務員(県庁・市役所職員)、IT関連企業(システム開発、Webデザイン)、広告、印刷出版、映像制作、マスコミ関係、イベント関係、一般企業等に就職しています。

### カリキュラムの特徴

人間の様々なコミュニケーションとメディアについて、  
1. 理論的な内容「言語コミュニケーション論」、「異文化コミュニケーション論」、「線形システム概論」、「メディアコミュニケーション概論」、「メディア芸術論」など  
2. ICT、英語を道具として使いこなす実践力を養う演習「情報集中演習」、「英語集中演習」、「テクニカル・ライティング」、「メディアデータ編集法」などのように理論的な内容と実践力を養う演習を通して、バランス良く学びます。また、コース内の様々な分野の科目だけでなく、他の学科、コースの科目を組み合わせることで、自分の興味関心や将来の職業に合わせた特色を持ったカリキュラムを作ることができます。

### 教員一覧と専門分野

- 荻原 洋(応用言語学・言語習得論)
- 上山 輝(デザイン・マルチメディア・映像)
- 黒田 卓(メディア教育・教育工学)
- 竹腰 佳誉子(アメリカ文学・異文化コミュニケーション)
- 竹村 哲(システム思考・問題解決学・創造性開発)
- 鼓 みどり(メディア論・メディア史)
- 内藤 亮一(英文学・シェイクスピア)
- 西田谷 洋(日本近代文学)
- 松本 清(鍵盤楽器・音楽理論・作曲・指揮法)
- 宮城 信(日本語学・国語教育)
- 山口 範和(偏微分方程式論・数学解析)



モデルカリキュラムは学部の公式ウェブサイト内にあります。  
<http://www.edu.u-toyama.ac.jp/curriculum/>

# 授業や研究の様子

## プロジェクトマネジメント

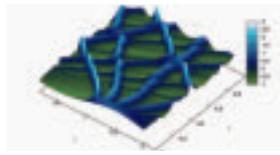
人間情報コミュニケーションコースでは、課題発見、解決方法の立案、解決にむけた様々なプラン、スケジュール調整、制作/開発実践などを学生自身が主体的に取り組む事によってプロジェクトの進め方を学ぶ授業として、「プロジェクトマネジメント」があります。各専門を持つ教員がテーマのヒントとなる情報を提供しますが、実際にはそれぞれのテーマ別に、学生が主体的に取り組む、最後はポスターセッションの場で、教員や学生向けにプレゼンテーションを行います。

## メディアコミュニケーション演習



コンテンツ制作を学ぶために、映像の構成、撮影、編集を実践します。デジタル映像編集のさまざまな機能、音響や楽曲づくりとともに、互いにコミュニケーションをとり、協力し合って作品を完成させるスキルを伸ばします。

## モデル化とシミュレーション



様々な自然現象に対する数学的アプローチの方法を学びます。図は計算機シミュレーションを用いて描いた浅水波方程式の解の時空間におけるグラフです。浅水波方程式は津波の数理モデルの一つです。

## インストラクショナルデザイン



教育的場面の実際のケースをもとに、対話を通じた課題の発見から方針設定、さらに実行可能で望ましい解決策の模索と提案というグループ学習を通して、問題解決のために必要な能力を培っています。

## テクニカル・ライティング



人に物事を正確に伝えるための文章の書き方を学びます。また、書くためには知識・技術が必要です。具体的には小説分析の課題で、自分で調査・考察した文章を作成し、口頭発表・質疑を行い、表現能力を高めます。

## 電腦社会概論



情報社会におけるメディアの役割、社会変容、必要とされる能力、情報倫理等について学びます。情報化がもたらす様々な社会的変化について、その変化の歴史、現状を知り、情報社会に参画するための基礎的能力の習得をめざします。

## 異文化理解・交流



この授業では、異文化間のコミュニケーションを効果的にそして円滑に図るためのキーコンセプトを学ぶと共に様々な文化についての知識や関心を高めることを目指します。

## 英語教育学ゼミナール



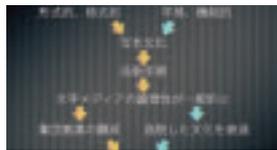
英語教育学ゼミナールでは、各国から来ている留学生も参加し、研究活動における真剣な議論はもちろん、刺激的で文化的な交流が行われています。

## メディア史



メディア史は、視覚芸術、映像、写真、広告など、私たちの日常にあふれるさまざまな視覚メディアの歴史を理解し、その機能や働きから、新たな発想のヒントを探る力を身につけます。

## コンテンツデザイン概論



文字やデザインの歴史から印刷、映像制作の手法、発想や企画など、コンテンツのデザインに必要な多くの事柄について解説します。また、番組制作に携わっている方々を招いて、制作現場での実際について学びます。

## ネットワークリテラシー



学校や社会にある数多くの情報機器がネットワーク化されています。ネットワークを上手に活用するために、技術的な知識・技能、情報の真偽を見分ける方法、関連する法律等について学びます。

## マルチメディアシステム演習



インタラクティブなWebアプリケーションを開発するために必要なスキルと言語を学ぶと同時に、コンテンツを企画し、それを完成させるために必要な応用力を実践的に身につけます。

## 組織マネジメント論



この授業では「意味ネットワークを用いた意見集約と提言」と、「自己点検活動と提言」という2つの学習活動を通じてチームにおける学びあいのクラスにおける発表・討議、そして合意形成の学習経験を図っています。

## 情報集中演習



コンピュータは清書の道具ではなく、煩雑な作業を合理化し、効率化するためのツールです。コンピュータに使われるのではなく、本当にコンピュータを使うために、実際に動くプログラムを作成しながら、プログラミングの考え方をマスターすることをめざします。

## 日本語運用基礎論



「日本語運用基礎論」は、これまでお座なりにしてきた日常のコミュニケーション（例えば、お願いする、誘う、説明する等）をうまくいかなかった会話例を検討しながら、自分なりの伝え方を創り出していく授業です。

## コンピュータ音楽編曲法



MIDI データを扱う DTM ソフトによる楽曲の編曲、出版のための譜面作成ソフトによる楽譜の清書、オーディオ編集ソフトによるオーディオデータの編集や処理など、さまざまな実習をしながら音楽の理解を深めていきます。

## メディアデータ編集法



1 年次後期にある基礎的な専門科目の授業です。メディアデータの制作の基本となるアプリケーションの使い方をマスターし、将来のデザインや映像、コンテンツの課題に対応できるような基礎力を身につけます。

## 数理システム概論

関数の変化の様相を調べる方法や関数から定まる量を求める方法を学びます。図は凸関数と呼ばれるクラスの関数に対して成り立つ不等式を可視化したものです。



## イギリス文学



比較的易しいイギリス文学の名作の講読を通し、英語運用能力を高めることと、英語圏文化に親しむことを目的とした授業です。写真は Oscar Wilde の喜劇をグループで役を振り、読み合わせをしているところです。

## マスメディア英語



英字新聞やニュース英語に慣れるとともに、時事的事柄をグローバルな視点から見ることを目的としています。写真は学生が教科書に関連したニュースをインターネットで検索して読んでいるところです。

# 子どもとのふれあい体験

## 発達教育学科共通専門科目

(1999年度から開設)

### □ 選択必修

- ・発達教育学科 学校教育コース

### □ 選 択

- ・発達教育学科 教育心理コース
- ・発達教育学科 発達福祉コース

### □ 人間環境システム学科

教員免許取得希望者は、  
受講することが望ましい。



「子どもとのふれあい体験」は、今年で教育学部から続けて18年目を迎える本学部の1年生対象の特徴ある授業科目です。

社会教育や生涯教育の分野で子どもとふれあう体験を通して、教育の本質を体験的に学ぶ機会を提供する目的で設定されています。

この科目は、単に大学内だけに留まらずに、各コースとも地域社会に出て、関係団体・施設等との関わりの中で、人を育てる人を育成する科目として非常に重要な役割を果たしています。この科目を選択して、年間60時間の活動を行い、体験レポートを作成すると、2単位を取得できます。しかし、学生たちは、子どもとふれあうことのよさを体験すると、2年次以降も、単位のためにではなく、自主的にボランティアとして関わることが多くなってきます。教員をめざす学生のみならず、公務員や一般企業への就職をめざす学生にとっても、社会と繋がる貴重な実践の場として認識されています。

## > 子どもとのふれあい体験 各コースの紹介



### 1 となみ野 サマーチャレンジコース

本コースでは、研修会に参加することで自らの「生きる力」を確立し、事業成功に向けて計画から実践反省まで指導者としての在り方を考えます。小学校4~6年生の子どもたちが、自らの力で4泊5日かけて120kmを歩ききるといふ事業で普段とは違う集団での生活を体験し、その中で思いやりや感謝の心などを学ぶためのさまざまなサポートを行います。



### 2 野外活動コース

本コースでは、「野外活動」や「キャンプ活動」を通して、子どもたちとふれあいます。まず、講習会に参加し、「野外活動」や「キャンプ活動」の知識・技能を学ぶだけでなく、実際の「キャンプ活動」等にボランティアとして参加し実践力を身につけ、指導者としての力量の形成をはかります。



### 3 遊び援助コース

本コースでは、富山市東部児童館と、富山県こどもみらい館(射水市太閤山ランド内にある大型児童館)に分かれて活動します。実際に子どもとふれあうのは原則として5月~3月までの月1回で、1回につき2~4時間程度です。ただし前後のミーティングや準備も規定の時間に含まれます。また、所定の活動日以外に児童館が開催する各種の活動に参加し、子どもの支援を行った場合も体験の時間数に計上します。



写真は、昨年度の「美術館子どもワークショップ運営コース」の様子



#### 4 不登校児童生徒の援助コース

“学校は楽しいところ。”そんな多くの人にとっては当たり前のように思えることが当たり前ではないという子どももいます。学校は先生や周りの友達と関わり、勉強するだけでなく、社会のこと、人間として生きていく上で大切なことを学べる場です。しかし、人間関係が複雑で多くの悩みや、問題が生まれる場ともいえるでしょう。実際に悩みを抱え学校にいけない子どもは多くいます。本コースはそんな子どもたちと実際にふれあい親身に向き合って考えることができます。



#### 5 美術館子どもワークショップ運営コース

本コースでは、富山県内における子ども対象のワークショップ「とみだいべけべけアートショップ」を準備・運営します。ここでは、展示作品の鑑賞をきっかけにした制作を行うワークショップを通して、子どもたちとふれあうことを目的とします。美術作品に親しむことを核にした作品との出会いの仕組み方や、楽しいものづくりの準備を行うことで、子どもたちに興味・関心を抱かせるための活動をどのように運営していくかについて実践的に学ぶことができます。



#### 6 科学実験・ICT活用コース

本コースでは、学校外における教育機会への参加を通じて、子どもとのふれあいの中で広い意味でのサイエンス・教科教育・ICT活用を行うための基礎を学びます。子どもに「楽しい」「面白い」と感じてもらいながら正しい科学やICTの知識を身につけてもらうための工夫を重ねる中で、自分自身(受講生)の学習と教育実践を結び付ける力を養います。



#### 7 きょうだい支援コース ～ジョイジョイクラブ～

本コースでは、発達に気がかりがある子どもや障がいのある子どものきょうだいを対象とした活動を行います。家族の中で後回しにされがちで、障がいのある自分の兄弟姉妹や家族のことで悩みを抱えることもあるきょうだいと語り合い、きょうだいがい切り活動できるサポートをします。1年の成長を通じて、子どもの心を理解し、それに寄り添うことを学べる貴重な機会です。きょうだいとの活動のほか、「家族 Day」では、きょうだいだけでなく、発達に気がかりがある子ども、親御さんも参加し、家族を支援するという視点から、みんなが元気になることを目指します。



#### 8 発達の気になる 子どもの援助コース

小学校や中学校には、軽度の知的障害児や発達障害児、そして特に医学的な名前はないけれども、発達が気になる子どもが数%在籍しています。本コースでは、発達障害児などの子どもを育てている親の会で、『富山県LD等発達障害及び周辺児者親の会「ゆうの会」』に参加して、子どもたちの健全育成を図ります。「ゆうの会」それ自体は親の会ですが、その子どもたちは発達障害や軽度の知的障害を有しています。こうした子どもたちに、健全な遊び場や社会参加・社会貢献できる場を保障することで、子どもの発達を促す場づくりを行っています。なお、本コースは、子どもの年齢に応じて小学部と中・高部の2つのグループに分かれています。



#### 9 こどももおとなも とびつきり♪コース

本コースでは、「ことりくらぶ」「ラブきらナイター」という活動に参加し、その企画、立案、実施をします。「ことりくらぶ」は主に幼児から小学校低学年を対象に、工作やクッキングなど親子で楽しい経験がたくさんできること目標とした楽しいイベントサークルです。「ラブきらナイター」は成人の発達障がいのある方たちと日帰り旅行やボウリング、カラオケなど余暇を一緒に楽しむことで彼らの生活の質を高めるお手伝いをします。このコースの活動では、幼少期から成人まで、そのお母さん方なども含め幅広い方々と関わります。その過程で人の生涯発達と多様性を理解することは、将来、教員はもちろん、保育士や社会福祉士、心理職などに携わる仕事に就く上でとても大切なことです。

# 富山大学スマイルフェスティバル



本イベントの前身は、旧教育学部で始まった、「遊ばん会」で今年で21年目になります。発足当時、学生の中で、教育学部に入学したものの、教育実習以外には子どもと接する機会が少ないという声がありました。そこで、彼らとふれあうことのできるボランティアの場が大学内に設けられたことに始まります。

以来、毎年学生たちで実行委員会が立ち上げられ、企画ごとに年1回のイベントに向けて、授業の合間や部活やアルバイトの合間を縫って、準備が進められています。当日は五福キャンパス全体を大きなテーマパークのように見立て、親子の来場を迎えます。平成28年度に行われた企画では、3,493人の親子が来場し、楽しい一時を過ごしました。



初期の頃は、本学部の前身である教育学部の学生が中心になって準備し運営してきた企画ですが、近年はほぼ全学部からスタッフが集まって、毎年子どもたちの笑顔のために一生懸命準備を行っています。また、自身が子どもの頃に参加した思い出を胸に、本大学に入学した後で、今度はスタッフとして参加する側になる学生も毎年多く出ています。さらに、本学を受験する前にスマイルフェスティバル当日に参加し、本大学に進学する意志を固め、受験を乗り越え晴れて合格し、スタッフになる者もいます。

本イベントは、11月に行われる本番のみでだけでなく、富山県が開催する「とやまっこ未来フェスタ」に参加(平成28年度は「巨大迷路」「スポーツバイキング」「おかしな国」)しています。

スマイルフェスティバルは毎年、地域の方々との協力や富山県教育委員会、富山市教育委員会の後援を得て開催することができています。これからも多くの人から愛されるイベントになるよう努めていきます。

## 富山大学 スマイルフェスティバル 2017

●●●● 実行委員代表からの一言 ●●●●

人間発達科学部 人間環境システム学科  
環境社会デザインコース 4年

五十嵐広己

「富山大学スマイルフェスティバル」とは、人間発達科学部の学生だけではなく、他学部の学生もスタッフとして参加して、全員で協力しながら作り上げるイベントです。仲間と共に活動をする過程で、私たちはさまざまなことを学びながら、成長することができています。

私は大学1年生からスマイルフェスティバルのスタッフとして活動してきました。そして、この経験を通して、いちから大きなイベントを作り上げることの難しさや来場者の方々の笑顔を見ることができた時の嬉しさを感じました。

私たち学生スタッフは約1年間をかけて、一からさまざまな企画を考えてきました。もちろん、その中には辛いことや大変なことが沢山ありましたが、いつも仲間同士で言葉を交わし、支え合いながら来場者の笑顔を楽しみにして頑張ってきました。その甲斐もあって、当日の2日間に出会った子ども達や保護者の笑顔を見て、自分達がやってきたことが沢山の人を幸せにしているということを感じ、心をふるわせて仲間と喜び合うことができました。

きっとこのような経験は、このスマイルフェスティバル無くしては得られなかったものだと思います。これからもずっとこのスマイルフェスティバルが地域にとっても大学生にとっても愛されるイベントであってほしいと思います。



富山大学スマイルフェスティバル2016スタッフ



### 【市内電車利用】

富山駅から約15分

### 【バス利用】

富山駅前 富山地鉄・路線バス  
「富山大学経由」(3番乗り場) 乗車約20分  
「富山大学前」バス下車すぐ

### 【タクシー利用】

富山駅から約15分  
富山きときと空港から約15分

### 【車利用】

北陸自動車道「富山西IC」から約15分、  
「富山IC」から約20分  
(ご来学にあたっては、なるべく公共の  
交通機関等をご利用ください。)

### 周辺地図・交通アクセス



問い合わせ先：

**富山大学 人間発達科学部総務課**

**TEL. 076-445-6259 FAX. 076-445-6357**

**E-mail : kyominfo@adm.u-toyama.ac.jp**